

## ハワイ大学医学部 Kuakini 病院実習 報告書

私は 2014 年 2 月 3 日から 2 月 28 日の間でハワイ大学医学部 Kuakini 病院に実習に行ってきましたので報告いたします。ハワイ大学には大学病院がなく、現地の学生たちは大学と提携したいくつかの市中病院で実習を行っており、私たちはその中のひとつである Kuakini Medical Center(以下 KMC)で 3 週間の総合内科実習と 1 週間の家庭医療実習を行いました。



KMC は病床数 250 の中規模の病院で、急性期を扱う病棟と老年医学などの慢性期を扱う病棟があります。救急車で運ばれてくる症例は急性冠症候群、心不全、肺炎や尿路感染などの感染症、肝硬変などかなりコモンなケースが多く、日本の大学病院でみる患者層とはかなり異なるものでした。総合内科では 4 チームに分かれて診療を行っており、交代で on-call 日がやってきます。on-call の日は救急車で運ばれてきて入院が決まった患者の担当となります。1 回の on-call で約 5 人の入院を受け持ち、それぞれの患者の病歴を聴取し、Assessment/Plan をチームで話し合いながら決定するため、問診や身体診察の練習だけでなく、治療方針決定に関わることができました。さらに on-call 以外の日は入院患者の処置が終われば比較的時間に余裕ができ、日々の治療方針でわからないことを質問したり、疾患や薬剤についてのレクチャーをしてくれたり、プレゼンの練習をみてくれたりするなどとても有意義な時間となりました。



最後の 1 週間は家庭医の先生の下での実習で、体力的にはこれが一番つらいものとなりました。ハワイの朝は基本的に早く始まるのですが、中でもここではさらに早く朝 4 時半ごろから回診を行い、6 時半に上級医に報告します。回診後はクリニックに行き、1 日約 25 人の患者のほぼすべてに対し私たちが最初の間診を行いました。主訴に対する問診だけでなく、Review of system という全身状態を把握する質問法がかなり磨かれたと思います。クリニックが終わった後は再度病棟の回診を行い、それが終わればその日の新患サマリーを書いて終了となります。この 1 週間は経験できることが大変多く、身に着いたものも多かったと思いますが、中でもこの家庭医の先生と患者やその家族との関係についてはかなり考えさせられるものがありました。先生の信条に「心構えは servant」というものがあります。患者が必要としたときにすぐに駆け付ける、私たちが医者であるのは患者が

いるからだということだといわれました。先生はまさにこれを 30 年間実践されており、本当に尊敬できるすごい方だと感じました。ここでの 1 週間は技術だけでなく、精神面でもかなり学ぶことの多いものになりました。

この度、1 ヶ月間の臨床留学を行って、日本とのシステムや考え方の違い、手技や問診の練習、医者としてのあり方などとても多くのことを学ぶことができました。これは大変貴重な経験であり、今後の日本での実習や医者になってからの人生に大きく影響することになると思います。最後に、今回の臨床留学に際して佐賀大学医学部学術国際交流基金様より助成をいただいたおかげでこのような大変貴重な機会に参加することができました。心より感謝を申し上げたいと思います。